

「かいいい」ハワイ諸島海域調査（KR-98-08,09）における重磁力調査結果速

Preliminary results of gravity and magnetic surveys of KAIREI Hawaii islands research cruises (KR-98-08,09)

坪山 乃博 [1], 佐竹 健治 [2], John R. Smith, [3], 「かいいい」ハワイ調査（KR-98-08,09）乗船研究者 仲 二郎

Nohiro Tsuboyama [1], Kenji Satake [2], John Smith [3], Naka Jiro Shipboard scientists of KAIREI Hawaii cruises(KR9808,09)

[1] JAMSTEC, [2] 地質調査所, [3] ハワイ大 SOEST

[1] JAMSTEC, [2] Geological Survey of Japan, [3] SOEST, Univ.of Hawaii

1998年8、9月に「かいいい」によるオアフ島北方海域および、ハワイ島南方海域における地形、地質調査と合わせて、船上重力計と三成分磁力計、プロトン磁力計による調査を行った。今回はその内重力、磁力調査結果を速報する。

1998年8月24日から9月19日にかけて海洋科学技術センターの深海調査船「かいいい」および無人探査機「かいこう」による調査をハワイ周辺海域で実施した。本調査には地質調査所、東京工業大学、北海道大学、静岡大学、岡山大学、ハワイ大学、米国地質調査所（USGS）と海洋科学技術センターの研究者が参加した。

この調査主な目的は（１）オアフ（Oahu）島北西方のヌウアナウ地回り（Nuuuanu）の分布とその由来の調査、（２）ロイヒ海山（Loihi Seamount）の地質調査と（３）ヒリナ地回り（Hilina Slump）を主とするキラウエア火山（Kilauea Volcano）の南側斜面の地質調査であった。この航海では昼間の「かいこう」による潜航調査やピストンコアやドレッジによる採泥調査と夜間および昼間の一部において、シービーム2112による海底地形調査と同時に「かいいい」装備の船上重力計、三成分磁力計とプロトン磁力計による調査を行った。

調査範囲はオアフ島北方海域（北緯 $21^{\circ}30' \sim 23^{\circ}00'$ 、西経 $155^{\circ}30' \sim 158^{\circ}$ ）とハワイ島南方（北緯 $18^{\circ}20' \sim 20^{\circ}$ 、西経 $154^{\circ}10' \sim 156^{\circ}$ ）で、前者にはオアフ島およびモロカイ（Molokai）島の北側斜面とそこから由来したと考えられる、ヌウアナウとワイラウ地滑り（Wailau Slide）のほぼ全域等、後者にはキラウエア火山の南斜面、東リフト（East Rift）の2000m以深部とロイヒ海山の全域とマウナロア火山（Muna Loa Volcano）の南リフト（South Rift）の一部等が含まれている。

今回はそれらの船上重力計およびプロトン磁力計による調査の結果を速報する。